

米沢有為会 東京支部だより

vol. 26

発行／(公社)米沢有為会東京支部 発行人／菅野 憲幸 発行日／令和4年12月20日
〒182-0004 東京都調布市入間町1-3-6 東京興議館内 TEL/FAX 03-3309-3302
米沢有為会ホームページ <http://www.yonezawa-yuuikai.org/>



東京支部園遊会 笑顔の記念写真
2022年10月29日



巻頭言

「古本とのつきあい」

菊地 隆雄

若いころ、ほんの一時だが古本屋の生活に憧れていたことがある。にぎやかな街の中心地にある客の多い古本屋ではない。まして古書肆と言うにふさわしい老舗の店舗でもない。場末にある客のめったに来ない古本屋である。そこの店主として、店の奥で日がな一日、本を読んだり、古本にパラフィン紙をかけたり、本の修理をしたりして過ごし、疲れれば昼下がりにはこっくりこっくり舟を漕ぐという生活である。古本の仕入れに駆けずり回り、古本市場で目ぼしい本の売り買いに鎬を削るという基本的な作業がすっぽり抜け落ちているのだから、いい気なものである。第一客が来なければ生活が成り立たない。なんとも滑稽で夢のような話だが、それはそれとして、「古本とのつきあい」が、今でも私の生活のもっとも大きな部分を占めていることに変わりはない。

今から四十年ほど前、文化大革命終結直後の大連と北京で、二年ずつ間を置いて足掛け四年ほど大学の教壇に立つ機会があった。八十年代初めの大連の本屋は、人が押し寄せ、ごった返していた。しかも本はすべてショーケースの中に入っており、それを店員に言って一々出してもらわなければならない。出してもらって手に取り、ぱらぱらと読み、買うことを決めれば伝票を書いてもらう。そしてその伝票を持って会計処に行き代金を払い、領収書を持ってもとの売り場に戻る。本はその領収書と引き換えにやっと手に入るのであった。八十年代半ばの北京は、都市の規模も異なるが、改革開放で急速な変化を見せていた。古本屋街の琉璃廠(リュウリーチャン)では自由に本棚から本を手にとって選ぶことができた。よくリュックを背負って本の買い出しに通ったが、春先の本屋通いは、時に子どもを連れての天安門広場での風

揚げに変わることもあった。日本では風揚げは正月の風物だが、北京では三月から四月にかけての穏やかな風の吹く時節である。遮るものが何もない広大な広場では、多くの人が風揚げに興じていた。抜けるような青空(まだ空気がきれいであった)に高く上がった風を支えるのは力がある。子どもよりも、むしろ大人の楽しみであった。

現在、埼玉の在に住んでいる私は、毎週出かけられるわけではないが、週末に開かれる三つの古書会館(神保町・五反田・高円寺)の古書展を楽しみにしている。様々な古本屋の古書が出品されるからだ。江戸期の和綴じ本は揃いであればそれなりの価格だが、ツカレのある端本であれば数百円というのも珍しくない。四書や日本外史の端本などは、和紙なので軽く、持ち歩いて読むにも便利である。大きな図書館でもカバーしきれない戦前の雑誌類も出品される。いつぞや「昭和期戦前の漢文環境」を調べていた時などは、昭和十年代の雑誌『キング』の付録の冊子「漢詩集」(八十五首収録)を目にしてびっくりしたことがある。今日で言えば、月刊誌の『文藝春秋』に漢詩集の付録がついてくるようなものであり、なかなかには信じられない漢文環境の実態であった。図書館の蔵書や名のある単行本だけを相手にしては見えてこない世界がある。

「古本とのつきあい」によって、「点と線」でしかとらえられていなかったものが、一気に「面」へと広がってゆくような思いであった。

(プロフィール)

高島町屋代出身。

都立高校の教員を経て、鶴見大学の客員教授を務めた。

現在は高校の国語(漢文)教科書の編修や漢文関係の執筆に従事している。

第30回文化大学

令和4年7月24日

オン・ライン

【米沢海軍―その人脈と消長】

日本海軍研究家 工藤 美知尋



①明治から昭和前期にかけて、『東京日日新聞』の記者として健筆をふるった鶴崎鷺城(うさぎ・ろじょう)は、明治45年、『薩の海軍、長の陸軍』と題する著書の中で、「薩摩海軍」や「佐賀海軍」という呼称を使った。これ以降「米沢海軍」という呼称も世間で使われるようになった。近代海軍士官を育成するための兵学校が開校間もなかった日清戦争までは、旧薩摩藩や佐賀県出身の海軍士官が多数を占めていたが、それから10年ほどして日露戦争時になると、旧米沢藩出身の士官が多数を占めるようになった。

た山下源太郎大将や、黒井梯次郎中将、今村信次郎中将をはじめ、昭和20年の終戦時の鈴木貫太郎内閣において国務大臣として鈴木貫太郎首相や米内光政海相を助けた左近司政三中将、および片桐英吉中将、また真珠湾奇襲作戦で第一航空艦隊司令長官の南雲忠一中将など、明治期から太平洋戦争終焉に至るまで旧米沢藩出身の将官たちが日本海軍の中枢を占めたその理由について問う場合である。

③「米沢海軍」形成については、幕末維新期の米沢藩の動向を考察してみると、自ずと明らかになる。米沢(上杉)藩の場合、戊辰戦争時の苦難の時代があり、この過程を通して旧藩士の立身の手段として海軍士官になることが意識されるようになった。

④「米沢海軍」の構成員は

(イ)、旧制米沢(興譲館)中学校(私立米沢中学校およびその前身を含む)と、昭和に入ると長井中学校の出身者。

(ロ)、日本海軍草創期に海軍に入り、少尉以上(文官等の場合には、それに相当する階位)に任官進級した者である。海軍兵学校(9名)・海軍機関学校(19名)・海軍経理学校(9名)の出身者・終戦時在校生を含む)、および海軍軍医等(9名)を合計すると136名いる。

明治期から大正期に入るとそれまで米沢地方に局限されていた「米沢海軍」の人脈は、戊辰戦争において「奥羽越列藩同盟」を結んでいたという歴史的近似性もあり、庄内藩、仙台藩や長岡藩出身の海軍士官と、姻戚関係を通して格段に広がった。したがって日本海軍史の上から「米沢海軍」を評価しようとすれば、これらの出身の海軍将官も視野に入れなければならない。例えば仙台の四竈孝輔中将や山梨勝之進大将、井上成美大将、長岡出身の山本五十六大将(戦死後元帥)と

五十六の友人として山下源太郎大将や四竈中将の薫陶を受けた大分出身の堀悌吉中将、さらには、庄内の佐藤鉄太郎中将や盛岡出身の米内光政大将などである。

昭和17年3月ジャワ海海戦において、敵方であった英国将兵約4百名を救助した工藤俊作海軍中佐の功績については、これまで世間に殆んど伝えられてこなかった。今回工藤俊作中佐の行為を取り上げることによって、「米沢海軍」の品格を世に問いたいと考えている。

「講師プロフィール」
1947年4月29日、長井市生まれ。1966年3月長井高校卒。同年4月日本大学法学部入学。1972年3月日本大学法学研究科政治学専攻修士課程修了。政治学修士(修士論文『日ソ中立条約の史的研究』)ソ中立条約の史的研究』)

オーストリアウィーン大学留学。1979年3月東海大学大学院政治学研究科博士課程満期退学。1985年9月、同大学政治学博士(学位論文『日本海軍・太平洋戦争開戦原因論』)

現在日本ウェルネス大学教授(文章表現・政治学)「主要著書」『米沢海軍―その人脈と消長』(2022年7月22日発売、芙蓉書房、¥2,640)『日本海軍と太平洋戦争(上下)』、『日ソ中立条約の研究』南窓社『苦悩する昭和天皇』、『海軍良識派の支柱山梨勝之進』、『終戦の軍師高木惣吉』など芙蓉書房出版『山本五十六の真実―連合艦隊司令長官の苦悩』『海軍大将井上成美』『戦犯・ある軍医の悲劇―冤罪で刑場に散った桑島恕一の真実』など潮書房光人新社。

その他多数



第31回文化大学 令和4年10月2日 オンライン

支倉常長の足跡を訪ねて—一生誕地米沢からの発信—

一般社団法人支倉常長日西文化協会 副理事長 福崎 真知子



講演では当協会の九里理事長に同席いただき、聴講者には理事長の興譲館での同級生、先輩、後輩が沢山おり同窓会のような雰囲気から始まった。その際の要旨一部をご紹介します。

今から409年前、1613年10月、支倉常長は伊達政宗の命によりサン・ファン号にて慶長遣欧使節団約180名でスペインに出帆した。スペインでの生活は常長自らクリスチャンの洗礼を受けサムライ日本の精神を発揮しながら、スペイン国王やローマ教皇との謁見を待ち、ようやくローマでは盛大な入市式で出迎えられ謁見の儀を果たした。しかしその頃日本では鎖国が始まっており、貿易交渉とキリスト教の布教という目的は果たせずに、1620年9月20日に仙台に帰郷した。しかし2年後に亡くなったとの事で不遇な人生を送ったと言われているが、常長のサムライとしての高潔な精神文化はスペインでは高く評価され、特にスペイン人が知っている有名な日本人として常長の名が挙がるとの事であり、私たちは常長の功績をまだまだ知らない方が多いので認知度を上げようと様々な事業を2014年から展開している。

偶然の出会いから、米沢出身の名和玲子が主宰の「さくや姫文化使節団」に所属している音楽アーティスト「天地人」が2014年、日本スペイン交流400周年記念事業に招かれ4都市で演奏を披露し生誕の地米沢を紹介したことから、「こと」がスタートした。その際、米沢市長からスペイン4都市の市長宛てのメッセージを持参しコンサートと桜植樹を行った。訪西報告を兼ね私と彼女は、約1年かけて、15件の生誕祭関連事業を実施し、その際に臨席のスペイン大使から2018年は日本スペイン国交樹立150周年につき訪問して欲しいとスペインに招かれた。それを受け毎年継続して日本・スペイン文化交流事業を行い、2017年「一般社団法人支倉常長日西文化協会」として組織化を図り、九里学園の九里校長に理事長にご就任いただく等、準備を進め2018年には65名で訪西団を結成、7日間のスペインツアーを実施した。ツアー1日目、コリア・デル・リオ市にあるギアダルキビール川岸から、「米沢藩古式砲術保存会」6名の発砲演武、轟音が響き渡りこれぞ日本!と感無量の交流開始の合図となった。その後、川岸に建立されている「支倉常長像」の前で記念写真を撮り、市民音楽隊による演奏で市庁舎までパレード、多くの市民の方々が沿道で手を振り出迎えてくれた。市庁舎ではセレモニーがあり新たな交流のスタートの感激の一瞬であった。その後おもてなしを受けガーデンパーティで美味しいスペイン料理を堪能、夕方からは文化会館を貸し切り、日

本文化紹介のワークショップとして風呂敷結び、折り紙など紹介。ホールでは、天地人や太鼓の演奏、スペイン側では、カーネギーホールでも公演した合唱団によるコンサート、フラメンコ舞踊などを行い、多くの市民の方にご来場いただき文化交流を図った。

翌日は、サンタマリア教会での特別ミサを体験、神父様から「おかえりなさい」とのお話があり、クリスチャンでもない私たちに煎餅の様な聖体を口に入れていただき、また沢山の市民の方からスペイン語で話しかけられ、「あなたはハポン! 私たちもハポン、だから私とあなたは家族!」と言われた。

“ハポン”とは、常長帰国の折り、当時スペインに残った数名の日本人の末裔のことで、彼らはそれが自慢であり米沢は常長生誕の地としてあこがれの町、聖地であるという。思い出に残る体験であり常長が通ったであろう荘厳な雰囲気の教会を後にした。マドリードでは、サッカースタジアムであるレアルマドリードのレストランを貸し切り、在スペイン日本大使との150周年記念レセプション、当日は、夜ワールドカップの日でサッカー場にはパブリックビューイングの設置中であった。また会員のみが入場できる王立アカデミーでは天地人コンサート及び日本文化紹介「着物ショー」など5件の公的事業を実施し7日間に渡るツアーを終えた。実施にこぎつけ無事帰国できたのは、偏に佐藤元日本大使やスペイン在住の下平氏のお陰と心から感謝している次第である。

翌2019年8月、22名のハポンさん達が来日、米沢では歓迎セレモニー、夏祭りでおもてなし。スペインの女性には浴衣をプレゼントするなど日本の夏を満喫頂いた。その後コロナ禍となったがオンラインなどで現在も交流を図っている。2020年は常長がテーマのわらび座によるミュージカル「ジパング青春記」公演、2021年7月「サンティアゴ巡礼の旅」写真展及び「私のスペイン」写真コンテスト、12月オンラインツアー&スパニッシュX'masディナーショー（フラメンコ付き）。そして2022年7月～11月「私のスペイン」写真コンテスト&WALL ART、12月メモリアルコンサート（山形交響楽団と天地人との共演）を準備進行中。これまで各種の事業を通じ、国内外の様々な方との出会いに支えられここまで来れた。

今後も米沢の風土から生まれた偉人のひとり「ヨーロッパに渡ったサムライ支倉常長」を紹介し、国内外からの来訪者による地域の活性化及び、民間外交として国際交流の発展に繋げていきたいと思う。

東京興譲館寮現在の状況

日頃より寮の運営と私たちの学生生活に多大なご支援をいただいている有為会の方々に感謝申し上げます。現在、我々東京興譲館寮には十四名の寮生が在籍しており、それぞれの目標に向かって日々邁進しております。

二〇二〇年度より始まったコロナ禍も3年目を迎え、リモート授業が中心であった私たちの学生生活も、対面形式に移行し始めています。

しかし、コロナ禍当初から感染防止対策に努めてきてはいたものの、今年は寮生の何人かが新型コロナウイルスに罹患し、寮内での感染拡大が懸念されました。その際には、菅野館長をはじめとした有為会の方々、寮母さんの厚いサポートのおかげで大事に至ることなく乗り越えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。これからもコロナ禍の緊張は続くことが予想されますが、決して気を緩めることなく、節度ある生活を心がけてまいります。

さて、東京興譲館寮は昨年度には五名の寮生が卒業し、今年度新たに二名の新入生を迎えました。慣れない新生活

を懸命に生きる新入寮生の姿に、私自身が入寮した当時を思い出し懐かしさを感じるとともに、先輩として彼らをサポートしていかなければならないという責任感を覚えます。

一方で、二十四室のうち十室が空室という事実には少々の寂しさを覚えます。コロナ禍の影響もあってか入寮生の数は減少傾向にあり、昨年よりも静かな印象があります。

寮の財政難にも頭を悩ませており、毎年恒例であった食事会が実施できませんでした。有為会の方々には、寮の運営の支援や来年度の新入寮生の獲得にご尽力いただいております。私たちも寮の為にできることをよつていく必要があると感じております。寮の設備や電気、水道を無駄に使わないなど、些細ではありますが節約の意識を持っていきたいと思っています。来春卒業予定の四年生は三人。大学院進学、就職等が内定しました。

また、三年生数名はインターシップの活動中で、元気に学生生活を送っています。今後とも我々東京興譲館寮を温かい目で見守ってくださいませよう、お願い致します。

(寮長 瀬野 陽生 記)

新入寮生 「私の抱負」

三保 俊作

(電気通信大学情報理工学域 米沢譲館高校)
私は高校でCSS部という化学部に入っていました。部活ではロボットのプログラミングや、プログラミング大会に出たり、AIを用いた活動をして来ました。将来は情報系の仕事をしたいと思っています。電気通信大学では、将来情報系の仕事をやるにあたって、専門的な内容を学べると思い入学しました。今は大学では主に数学や物理、プログラミングについて学んでいます。高校ではプログラミングについて2Dのゲームを作っていました。学生時代に3Dのゲームを作りたいです。これからも大学生活を頑張ります。

武田 一晟

(國學院大学経済学部、東北学院高校)
大学生活も一年が経とうとし、だんだんこの生活に慣れてきました。前期はただがむしやりに頑張ってきましたが、二年生になったら「計画的に動く」ことを抱負として頑張りたいです。今大学では経済を学んでいて、地域社会について勉強しています。経済・地域社会は今後自分が公務員や会社員等何になるか分かりませんが、簿記ができることは大人になってから凄く大切なことだと思うので、その勉強を頑張りたいです。



楽しいクリスマス会

東京興譲館の改修工事について

一階厨房・給排水管改修工事他。創立百三十周年記念事業の一つとして皆様から頂戴いたしました寄付金を活用させて頂きました。感謝申し上げます。

新しくなった厨房



新入寮生募集についてのご案内

来年の入寮生募集も一月から始まります。募集人数は十三名(定員二十四名)寮費(食事代、水道代、光熱費等全てを含む金額)月額五万円
朝夕二食付き 土、日および休日を除く入寮費三万八千円 (初年度のみ)
面接はコロナ禍のためオンラインで実施入寮願書は、米沢有為会のホームページからダウンロードしてください。

寮経営のブレイクポイントは十八名であり、経営的に厳しい状況です。来年度は入寮希望者を増やすべく各高校等への促進活動を強化する予定です。

会員の皆様に置かれましても、身近に、おられる方やお知り合いの方で、来春首都圏の大学に進学される学生がおられるは是非東京興譲館寮をご紹介・推薦いただければ幸いです。

置賜出身者でなくとも会員(一名)の推薦があれば応募可能です。
宜しく願います。(菅野憲幸 記)

東京支部の活動状況

令和四年度支部総会・園遊会

コロナ禍のため、東京支部「定期総会」は六月二十六日に議決権行使書によって開催しました。令和三年度の事業及び決算報告令和四年度の事業計画(案)予算(案)は賛成多数で承認されました。東京興譲館は二名の新入寮生を迎えました。支部の新入寮生歓迎会は中止しました。

そのため寮で館長を含む運営チームが参加して新入寮生歓迎会を実施し、支部からも補助金を出しました。

二年振りの園遊会で

芋煮と地酒を満喫

コロナ禍ですが令和四年の園遊会は主婦会館プラザエフで十月二十九日に開催されました。

定刻に林常子理事の司会で始まりました。

ご来賓は、上杉邦憲様ご夫妻下條泰生名誉会員、大滝則忠名誉会員、平山英三様ご夫妻でした。

合唱団が歌う県民歌「最上川」を会場に流して斉唱後に、上杉邦憲名誉会長、平山英三会長よりご挨拶を頂きました。

米野宗禎相談役の音頭で乾杯をして懇談に入りました。置賜から材料を取り寄せて池亀かよさん(ボランティア)と実行委員の倉田和子さんの二人に調理していただいた芋煮や玉こんにゃくと地酒を味わいました。今回は、物産の販売とお楽しみ抽選会は中止しました。全員で唱歌「ふるさと」を斉唱して、川合勝雄副支部長の閉会の挨拶と宮坂孝夫理事の花笠音頭の三本締めで散会しました。出席者の人数は、寮生十一名を含めて六十二名でした。

今回はコロナ禍のため、初めて飛沫感染防止のツイタテをした円形テーブルの着席スタイルで実施しました。料理も弁当形式で落ち着いて飲食できると好評でした。実行委員の皆様ご協力有難うございました。

(川合勝雄 記)

新入会員

本間 克仁

松が岬、お堀の近くのオフィス



初めまして。本間克仁と申します。

私は平成19年度米沢興譲館高校を卒業し、東北大学経済学部にて地域計画(まちづくり)を専攻、大学卒業後は山形県内で公務員をしておりました。

業務を行う中、データに基づく定量的な意思決定に興味を持ったことで、東北大学大学院に戻り、計量経済学や機械学習に関わる研究室で修士課程を修了しました。その後は上京し、データサイエンティストとして、SOMP Oホールディングス(損保ジャパン)や不動産領域におけるAIスタートアップなどでの勤務を経て、今年(令和4年)2月に起業をいたしました。

現在は、不動産業者の皆様にご利用いただくSaaS(顧客管理システム)を開発することを主たる事業としつつ、一方で、業界を問わず様々な企業様に対しデータ分析・AI導入にかかるご支援をさせていただいているところです。山形の銀行様からデータ分析・AIに関するご相談をいただき、5月から毎月のように山形に帰るようになりました。

産まれたばかりの息子を連れて館山にある親戚のリンゴ畑から街を見下ろすと、ここで十八まで育ててもらい、その上お仕事まで頂戴している自分が何故東京に住んでいるのか不思議な気持ちになります。そのそぞろな心が原因なのかもしれませんが、ふと、何かしらの形で地元貢献できないかという気持ちが湧き、米沢有為会に入会させて頂きました。

いつか松が岬のお堀の近くにオフィスを作ってみたいと思います。コロナ禍でリモートワークなどの新しい働き方が進んだ影響で、そのような夢も現実味があるものになってきたかもしれません。山工大学の学生に仕事を手伝ってもらったり、お昼休みにコーヒーを持って伝国の杜の芝生をふらふらしたり。そんな未来を夢想しながら、とりあえずは目先の仕事と、今日も打ち込んでいます。



特別寄稿

「縁は異なるもの味なもの」その二 米野 宗禎



東京支部だより二四号で愛郷心と血縁など仏心もあてスケツチしました。その介あつて、加藤晴一、正憲さんから

加藤家当主渉氏と会いたい、渉氏からは同姓で「上杉鷹山の藩政改革と金主たち」の自费出版された国雄氏も！と。

加藤さくらの長男米野と五人で初会合を東京新宿で四月十七日十二時三十分からコロナ禍にも負けず開催しました。

早速、加藤家の家系図、自己紹介等の資料写真等頂きました。しかし江戸・明治・大正・昭和時代、現代の子供一く二人少子化時代と異なり七く八人の兄弟、複雑怪奇な過去帳にも映りました。しかし花が咲き膨らむものでした。「加藤八郎氏」を義父嘉村満雄が紹介。故妻の父が一八九九年、佐賀県生まれで北京に留学同学会語学校に学び、毛沢東、満洲国皇帝溥儀や関東



加藤八郎氏

軍司令官との通訳をつとめ、ペンネーム葉室早生（本名嘉村満雄）訳、李宗吾著「厚黒学」（ずぶとくはらぐろいがく）を出版。中国人の世界観、人間観に学ぶ内容で政治、官僚、ビジネスマンの必読ベストセラーとなり、三つの出版社から出版されました。一九五〇年日本に帰国し東京地方検察庁に勤めており義父が「加藤八郎さんたちが発起人での会のパーティーがあるから私に代って出席してくれ、出版社に努めているから参考になるよ」といわれ三十歳過ぎ頃の小生は会場で加藤八郎日版社長の名刺を頂きました。義父は「満洲国でお世話した一人だからー」との由。しかし加藤家とのことも有為会のことも無知でしたから！ところで「日中平和友好条約」結んで今年で五十年の祝い。義父満雄は田中角栄首相

から式典等の通訳を頼まれた由。しかし断ったのです。理由を聞くと、日本の政治家は「明日の夜仕事がないから女を連れ来い」と通訳を人間というより小道具扱いする。中国の政治家にかなうわけがない。と云うものでした。日本は、ご存知の通り没落の姿とも云われ云われている最中ではないでしょうか。

鈴木修さんに入会を勧められて

有為会百二十年記念式典での話

小生が米沢有為会を知ったのは伯父の加藤総一郎が舎生でいづれ東京舎生で入れてもらいたいと思った頃です。加藤八郎会長は小生にとってすでに天の人です。

創立百二十年周年祝賀会実行委員長鈴木修二さんに入会を勧められて下働きしました。その一つ式典の記念講演を愛郷家の井上ひさし氏に頼むことでした。

ひさしさんは、小松町旧川西町（現）出身で小生とは部落で小・中学の草野球のチームを作り遊びましたから、鈴木委員長と「鎌倉市まで来なくてもよいのに電話で男OKよ」と云うものでした。しかし会の前に急逝されました。有為会東京支部8号に鈴木さんが追悼文を述べておられます。その式典で鈴木さんは八郎会長の長男晴一さんを紹介して下さってご縁を知り今があります。

ところでひさしさんの先妻西館好子さんは「日本らばい協会」を創立し理事長として活動しておられます。西館さんとは「ひよっこりひよたん島」時代からひよっこの漫画本を創ったりの付き合で出版編集仲間五人の会を春夏秋冬行っており米沢有為会十三代会長下條泰生氏（日販専務取締役）「加藤八郎さんにはすっかりお世話になったよ」と云われます。好子さんには「文化大学」で「ここがひさしさんの故郷なのね」といつて話しをスタートされました。娘の麻矢さんにもこまつ座の話をしてもらいましたね。ご縁をこれからも生かしたいと思うのは小生だけではないと！

「アジャパー」の伴淳は米沢出身

五人の話は記録することもなく酒の肴に喜劇俳優伴淳の話題を提供した。小生の伯父総一郎が「自分が俳優になりたいので親類と思つて伴淳に頼みに行ったそうだと。ところがけんもほろろで「映画の世界はオモテとウラがあつて、おまえのように早稲田大学理工学部でたものに入る世界でない」と「ゴシガツチャ！ごで！」と云うものでした。耳学問の話で伯父はかつて黒金泰美（政治家）の米沢事務所でアルバイトしたこと

あり派手好き（？）の小話でした。所で伴淳夫妻の墓は米沢市内にある「極楽寺」で「アジャパー天国」とばかりに眠っております。今の住職の弟が中小松の「陽源院」に小生の妹と結婚して米野邦広が住職です。

この事は耳学問ではない事実ご縁の話です。

「おわり」にあたり

小生も終（しまい）支度（じたく）をそろそろしなければとの思いで五人の会もその一つですネ！その報告が独り善がりになって無調法な！金持ちより人モチがハッピーですね。

米沢有為会東京支部の会員諸氏とのご縁あつての誌面の活用、オシヨウシナ！



特別寄稿

ウクライナ戦争所感

東京海洋大学名誉教授

佐藤 好明



を殺傷して止まない。

更に、プーチン・ロシア大統領は、戦況が劣勢に傾いたと見るや、ロシアの領土保全を西側諸国が危険に陥れた場合には、使用できる全ての武器を用いる、と核兵器使用を示唆する威嚇をした。彼の言うロシア領土には、侵略でウクライナから奪ってロシア領に組み込んだ地方も入る様だ。ウクライナが元来自国領土だった所を奪還しようと自衛の挙に出ると、ロシアが核兵器を用いると言うのだ。

残念ながら、核兵器使用の違法性は国際法上、確立されてはいない。国際司法裁判所は、核兵器に関する勧告的意見で、核兵器の使用等の包括的禁止は、慣習国際法にも条約にも存在しないと宣明している。

歴史上も核兵器の様な新兵器の禁止に失敗した例は多い。石弓もその典型例で、騎士の鎧の胸板を貫く殺傷能力に戦慄して、十二世紀のキリスト教会が石弓禁止に努力した。しかし、兵士は実践で使い続

けたし、皇帝フレデリック二世との争いでは、教皇が何百人もの石弓射手を動員して、自ら禁止を破った。

ロシアが核を使えば破滅的結果をロシアに齎すと、米国が警告したと伝えられる。但し、同種核兵器で米国がやり返す可能性は低いと言う。それは、拡大の悪循環を招き、終には全面核戦争になり兼ねないからだ。他にも、通常兵器で核兵器発射基地を叩く等、様々取り沙汰されている。

この戦争の終結は、どの様に考えられるのか。戦争終結交渉が行なわれるのは、当事者が疲労困憊したか、敗北を覚悟したときと言われるが、現時点では、戦争当事国双方共に、戦闘を続けて最終的交渉の立場を強化したいと考えており、交渉が行なわれる見込みは当面薄いと言われる。ロシアは、同国黒海艦隊の母港のあるクリミア半島の戦略上の重要性から、その支配をレッドラインと見做していると解される。又エネルギー価格の暴騰と核使用の脅迫が、米欧のウクライナ援助意思を挫くと期待している様である。米・欧がウクライナを支援する理由は、「国境の武力による変更を許さない」という核心的原則」の擁護であり、十月

十一日のG7の声明でも、正義に適う平和が希求されたが、他方プーチン氏が戦術核兵器を使わない様に、戦闘をウクライナ国内に限定する努力もされている。

ウクライナ戦争終結には三つの考えがあると言われる。現実主義、楽観主義と修正主義とである。西欧の主な憂慮は、核戦争であり、東欧が恐れているのは、ウクライナが敗北してロシアの勢力圏内に再び組み込まれる事である。現実主義者は、ロシアを勝たせず、ウクライナを敗北させず、且つ、戦争を拡大させない事を目標とする。ウクライナが奪われた領土の回復は助けるが、クリミア半島の奪還は、ロシアによる戦術核の使用の危険を大幅に増し、目標の限度を超えるから、そこまでは加担しない。冷戦時代には、正義と歴史の審判を待んで争ったが、現在では、「黙示録的心情に支配された人物」が相手で、より危険だと言う。キューバ危機の米ソの当事者は何れも第二次大戦の激烈な悲惨を経験していたし、通信・兵器の到達時間も今より長く掛かり、問題検討に今より余裕があった。今は熟慮の時間が足りない。

楽観的見解は、ウクライナ

の勝利とプーチン大統領の失脚で終わると期待する。ドイツ国民の一部と大半の東欧国民がこの見解を支持していると言われ、ウクライナへの支援を無制限に行い、ロシアを敗北させる必要があると言う。修正主義は、ウクライナ戦争をプーチンの戦争ではなく、ロシアの戦争と解して、欧州の安全の為、ロシア内の分離主義者を支援し、ロシア連邦の解体で戦争を終わらせなければならぬと言う。過去にロシアに支配されたバルト三国、ポーランド、ウクライナに人気がある主張だが、逆に、プーチンが持ち合せていなかった開戦理由を事後的に与えてしまう欠点がある。

以上の三つの見解の相違を克服し、戦争終結の為の共通の枠組みを構築する事が緊急のものになってきた。

(プロフィール)

昭和35年米沢興譲館高校卒業
一橋大学法学研究科
博士課程単位取得満期退学
専門は国際法
オックスフォード大学
シニアアソシエイトメンバー

「米沢海軍と武士道」

上杉邦憲 米沢有為会名誉会長

下の写真は、昭和4年山下源太郎邸にて撮られたものです。前列中央が明治時代米沢海軍のみならず日本海軍の中樞だった山下大将（文久3年米沢市生まれ）で、後ろの女性（左が三女の安藝子、右が次女淑子、中央が当時12才の上杉隆憲です。私の父隆憲は幼少時かなりのキカン坊だったので、山下大將宅にお預けの身となりました。古武士の風格で、見るからに怖い山下大将に徹底的にしごかれた父はすっかりおとなしい子になったそうです。そんな中でこの姉妹に優しくしてもらったのが救いだったと聞きました。

艦隊司令長官に抜擢したのが旧長岡藩出身で山下源太郎大將を敬愛していた山本五十六連合艦隊司令長官でした。その8か月後の真珠湾攻撃から翌年6月ミッドウェイ海戦を山本・南雲の二人が旧奥羽越列藩同盟コンビで戦ったことになりました。

したが、いつも背筋をピンと伸ばしておられ、いかにも海軍人という風貌の方でした。戦時中のことをあまり語ることはなかったのですが、平成21年90歳の誕生日を迎えて、米沢信用金庫から「一身にして三生」という自伝を出されています。

有為会東京支部理事で「支部だより」編集委員でもある工藤美知尋氏の著書「米沢海軍」には「山下大將は・清廉潔白な提督で・同郷の士官だけでなく他県出身の山本五十六や堀悌吉などの士官からも多に敬愛され・」

そして、ミッドウェイ海戦に敗れ、航行不能で漂流中の南雲長官座乗だった旗艦空母「赤城」を沈めるための魚雷を発射した駆逐艦「野分」の水雷長が青木厚一大尉（大正8年米沢市小国町生まれ）でした。青木大尉はその後駆逐艦「初桜」の艦長として、終戦直後の昭和20年8月28日降伏文書に署名させるべく戦艦ミズーリを始めとする連合艦隊100隻以上が機雷原を避けるため一列縦隊で東京湾に進入する際の水先案内役を務めることになりました。

「米沢海軍」第6章には昭和17年3月2日のスラバヤ沖海戦の際、英国の軍艦「エンカウンター」が撃沈され漂流していた将兵四百数十人を救助、手厚く処遇した工藤俊作（明治34年東置賜郡屋代村（現在の高島町）生まれ）駆逐艦雷（いかづち）艦長のことが詳しく述べられています注2。この時救助された英国海軍大尉のサミュエル・フォール卿が晩年「死ぬ前には非工藤艦長に御礼が言いたい」と言われて、八方手を尽くして消息を尋ねられた際、尽力されたのが同郷の青木厚一大尉でした。平成20年、89歳という高齢のフォール卿を迎え、工藤俊作氏の墓所川口市葉林寺で盛大な墓前祭が行われたとのことです。工藤艦長の行動はまさに「海の武士道」注3の発露であり、米沢の誉れと思います。

昭和16年4月、南雲忠一中将（明治20年米沢市信夫町生まれ）を初代の第一航空

青木厚一大尉は戦後、米沢織物工業組合理事長や米沢信用組合理事長を務められたので御存知の方も多いかと思いますが。父隆憲はじめ私たちが親しくお付き合いさせて戴きま

したが、いつも背筋をピンと伸ばしておられ、いかにも海軍人という風貌の方でした。戦時中のことをあまり語ることはなかったのですが、平成21年90歳の誕生日を迎えて、米沢信用金庫から「一身にして三生」という自伝を出されています。



注1) 工藤美知尋「米沢海軍」芙蓉書房出版（2022）

注2) 同上pp. 235-241

注3) 惠隆之介

「敵兵を救助せよ
駆逐艦「雷」工藤艦長
と海の武士道」
草思社（2006）

支部会員の皆様へ

令和5年の新年会・予餞会は
新型コロナウイルス感染防止
のため中止とさせていただきます。

編集後記

▼ウクナイナは、何度も大きな戦争の戦場となり多くの勢力がウクナイナを獲得しようとした。

▼大国になりうる潜在力のあるウクナイナがどうなるかによって東西のバランス・オブ・パワーが変わるのである。

▼その意味でウクナイナが独立を維持して安定することとは、ヨーロッパ、ひいては世界の平和と安定に重要である。

▼これはアメリカや西欧の主要国の認識であるが、中・東欧の諸国にとってはまさに死活の問題である。その為たくさんの避難民を受け入れている。

(K・K)

編集委員メンバー

委員長……………川合 勝雄
菅野 憲幸／佐藤 好明
菊地 隆雄／工藤美知尋
齊藤 三紀／宮坂 孝夫